東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕 大和証券フェニックスジャパン・プログラム2012

応募状況

2012年の公募は、2012年6月11日から約1ヶ月半にわたり、主にインターネットを通じて行った。その結果全国より27件の応募があった。

●応募の状況(新規助成)

(支援対象分野)

応募の多い支援対象分野は、「救援・復興支援」および「こども支援」で、次いで「高齢者」、「障がい者」支援となっている。

(団体の状況)

①常勤スタッフ数 事務局の常勤スタッフ数(有給で週3日以上勤務)は、3人以下の団体で7割となった。

一方、10人以上のスタッフを抱える団体が4団体(15%)あった。

②事業規模 前年度の支出総額からみた事業規模は、100万円未満の団体が22%と最も多く、次いで

5,000万円以上が19%となっている。常勤スタッフ数の傾向にも同じく、事業規模の小さ

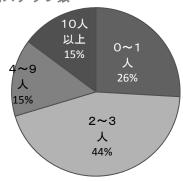
い団体と、大きい団体との二極分化した応募傾向がみられる。

③活動年数 活動年数は、団体設立後0~1年の団体(震災後に設立)が44%と最も多く、次いで2~5

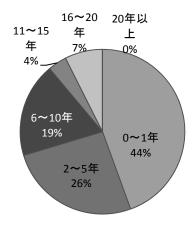
年の団体が26%であった。

④所在地域 団体の所在地は、宮城12、岩手6、福島4であった。

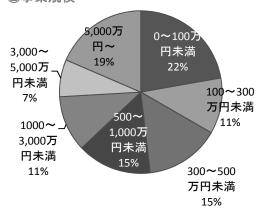
①常勤スタッフ数



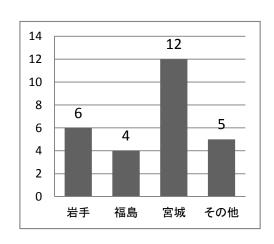
③活動年数



②事業規模



4)所在地域



東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕 大和証券フェニックスジャパン・プログラム2012

(スタッフと組織の育成方法)

- ・スタッフの育成方法は、組織内部におけるOJTが多く、内容としては事業の実施はもとより、組織体制を整えるための団体運営の実務に関するものが目立った。
- ・また、外部専門家を招いた研修や外部に出向いて研修、講習を受けるもの、他団体の見学が多くみられた。
- ・組織としてのフォロー方法は、実施条件としているスーパーバイザーの配置と定期レポート以外に、組織として新た に団体を設立する、他団体とのネットワークを強化するなど、組織の体制や環境を整えるものが多かった。
- ・雇用環境の整備面では、雇用状態をつくり出すこと、ボランティアスタッフなどの正職員化、社会保険の加入や充実などがあった。スタッフの専門性の向上や専従化とともに、生活の安定化についても主眼が置かれている案件がみられた。

スタッフの支援力の向上	組織によるフォロー
1.組織内部の取り組み	1)組織体制・環境の整備
•OJT	・新規団体の設立
ー組織運営の実務	・新規事業の創設
一実地研修	・他団体との連携
	・WEBシステムの整備
•研修	
- 外部専門家による研修	2)人の配置
	・スーパーバイザー★
	·研修担当者
2.外部の活用	・理事による指導
・講習会・研修会	・研修時の人員調整
・他団体の見学・研修	・業務の専任化
・海外視察・研修	
・資格取得など	3) 進行状況確認とフォロー
	・定期打合せ
	4) ネットワークの紹介
* 向上させたいスキル	5)報告・発表の場の設定
・ファシリテーション力	・定期レポート★
・コーディネート力	・報告会の開催
・ヒアリング能力	()))
• I T技術力	6)メンタルケアの実施
・公文書作成力	・カウンセリングなど
雇用環境の整備	
•雇用★	

*本プログラムでは★印を実施条件としてあらかじめ採用している。

など

・社会保険の加入★

報酬起業支援